

介護・医療連携推進会議記録

開催日時	令和7年 3月 21日 (金) 18時30分 ~ 19時30分	場 所	株式会社グッドライフケア東京 大阪オフィス7階大会議室
参加者	地域包括支援センター 職員4名、介護・看護施設 職員2名、医療連携室 職員1名		
<p>○利用者推移の数値的データの紹介と考察</p> <p>○事例紹介</p> <p>○意見交換・質疑応答</p>			
<p>活動内容等の評価</p> <p>感染症対策のため『Zoom』を用いて本会場と併せて会議を実施</p> <p>Zoom参加者 外部 7名 職員 11名 (最大接続時)</p> <p>本会場参加者 外部 0名 職員 7名 参加者合計 25名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期巡回 介護度別グラフ (令和6年6月~12月)、4区別利用者推移グラフ (令和6年6月~12月) ・事例発表 「助けてもらってええから」人と人をつなげる定期巡回 (当初は支援を拒まれる 事が多くトラブルが発生することもあったが、ご本人の意思を尊重し、つかず離れずの支援を 継続した結果、サービスの実施が出来ているケース) ・意見交換・質疑応答 			
<p>内容</p> <p>○要介護度別の定期巡回利用者数の報告</p> <p>⇒要介護度が低いほど利用者数が多い傾向があり、これは短時間訪問が基本となる定期巡回の特性によるものと考えられる。</p> <p>○利用者推移の数値的データの紹介と考察</p> <p>⇒福島区が突出して多いのは居住環境・生活環境など地域性が影響している。</p> <p>利用者数の減少に関してはサービス終了だけでなく定期巡回から介護に移行された方も多い。</p> <p>○看護定期訪問がある場合とアセスメントナースの割合の紹介と考察</p> <p>⇒短時間・複数回訪問が基本となるため、ご利用者様の状況に合わせて看護と相談しながら月中でも予定を調整できるのも定期巡回のメリットと言える。</p> <p>○事例紹介</p> <p>⇒ご利用者様について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人から干渉されることを嫌う性格、納得いかないことがあると不穏になる ・ご家族・親戚とは音信不通 ・2020年2月頃に"くらしサポート中央"から"オレンジチーム"に相談が入り、"地域包括"へと繋がれ介護保険認定を受け、認定結果を経てグッドライフケアへの新規相談 ・認知症状があり、他の通院歴はなし ・ADLは特に問題なかったが、ゴミの分別に問題があったことが後に発覚 <p>⇒サービス開始当初、定期巡回の介護・看護、デイサービスを利用、『服薬管理』と『安全で定期的な入浴』を最初の目標として開始</p> <p>⇒本人の性格やご意向に配慮してつかず離れずの支援を順調におこなっていたが、怒鳴る、暴力行為等のトラブルも発生した</p> <p>⇒服薬方法の変更やつかず離れずの支援を継続していたが圧迫骨折により動けなくなったため、拒否されていた生活援助を説明し承諾をいただき実施、回復するまで継続した</p> <p>⇒その後態度は軟化、今後もつかず離れずの距離で見守りご利用者様らしい生活をサポートする</p> <p>○意見交換・質疑応答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質問：定期巡回には1日何回まで訪問できるか ⇒回答：目安はある（介護度によって）が、ご利用者様の状況によって増回する場合があるがその際は看護等相談して決定する。 ・質問：定期巡回での看護師の定期訪問（アセスメント）に特別な単位数が必要か単位が追加される場合はあるか ⇒回答：看護の月1回の定期訪問、指示書の無い訪問については定期巡回の単位数に含まれる別にリハビリ等で看護の訪問が必要なら指示書と定期巡回とは別の単位が必要 ・質問：定期巡回から単発の訪問介護に切り替わることはあるか ⇒回答：支援が必要になり長時間サービスとなる場合は訪問介護に変更することはある。 ・質問：随時対応サービスのナースコール等を使用されたことがあるか ⇒回答：介護サービスを使っているという認識が無くコール機をうまく使いこなせないため貸与していない ・質問：「アセスメントナース」という言葉は常用しているか（聞きなじみがないので） ⇒回答：「月1回のアセスメントナース」は介護では使う。看護では定期巡回以外の月1回の非接触の訪問（問診等）について「アセスメント訪問」と言っている。 			
事業所名	グッドライフケア24大阪	記録作成者	令和7年 3月 21日 今西 豊

※原則として会議開催2か月以内にこの記録を作成・公表すること